# ＜想創の学びを築く学校＞　vol.1

「学びのふるさとたる学校」という研究主題。新学習指導要領の完全実施、教育課程の発刊という大きな教育界の流れの中で取り組んだ３年間でした。その中で本校研究は、「共生の文化を創造する学校」という学校教育目標にもう一度立ち返り、子ども・保護者・教師が共に歩んでいく学校作りに邁進してきました。

『ふるさとたる学校』は「小学校段階で学ぶ様々なことが、子どもの将来に渡って生きる力となる。子どもが社会人として自立し、社会の中で自分の能力を発揮できる」～そのような礎を築くことです。子ども一人一人が、本校での『共生の学び』をもとに、自立し個の力を付け、自分という人間を形成していくことが、大きな目標となっていきます。

今次研究のスタートに当たり、私たちは２１世紀に生き抜いていく子どもが人間形成をしていく上で必要な力として、**「創造力」**という力を大切にしていきたいと考えました。

国立教育政策研究所のプロジェクトは、「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原理」をまとめ、今後の社会に必要な資質・能力を**思考力と基礎力、実践力**に整理し、「21 世紀型能力」として示しました。これによって「21 世紀を生き抜く力をもった市民」としての日本人を育成し、「自立・協働・創造」を軸とした生涯学習社会を実現することをねらっています。

ここで語られている３つ「自立・協働・創造」は、これから研究を進めていく上で重要なポイントと捉えています。そして、子どもの将来を考えたとき、新しいものを生み出していく力＝「創造力」の育成が欠かせないと考えました。

創造力とは「何もないところから新しいものを創りだしていく力」という考えもありますが、一方で「つながりを見いだし統合する営みの中で新たなものを生み出す力」という考えもあります。

本校研究部では後者の考えに立ち、「既にもっている経験や知識から新たなものを生み出していく力」であると考えています。

昨今、様々な業界や立場の方が、これから生きていく上で大切と考えている「創造力」。この力は、子どもが社会の中で自分の能力を発揮していく上で大切な力となるはずです。

また、「創造力」を育成していく上で、私たちは**「想像力」**も必要だと考えています。

「想像する」とは、「目に見えないものを頭の中に見えるようにすること」。頭の中に対象を直感的・具体的に思い描いた像。このような自らのイメージを膨らませ広げる想像力が、創造力へとつながると考えるのです。

また、「想」という字は『相手を思う心』。創造によって生み出される「今までにない何か」は、他者とのコミュニケーションの中から生まれると考えます。自分だけで一生懸命取り組んでも打ち破れない壁の向こうに「今までにない何か」はあるのではないでしょうか。

「創造力」と「想像力」～この２つの「そうぞう力」を大切にした「想創の学び」を築くべく、新たな研究の歩みがスタートしています。